



別記様式第5号（第2条関係）

記 録 票

教育長	課長	主幹	課長補佐	係長	係員		
小西	大井			横峰	今田	宮本	河野
(関係課：)				報告者職名・氏名 副主任 衆樹 亮介			
件名 令和6年度第2回教科用図書選定委員会（中学校）				方法 ☒ 来庁 ☐ 出張 ☐ 電話 ☐ その他			
内容 ☒ 協議 ☐ 質問 ☐ （こちらから）照会 ☐ 情報提供 ☐ その他（ ）							
令和6年7月23日（火）14時00分～17時30分				場所 大竹市役所 1階職員休憩室			
出席者	総務学事課課長補佐兼教育指導係長 横峰路子 副主任 衆樹 【採択地区調査員報告者】 11名			出席者	【選定委員】 小田 大介（玖波中学校長） 久保 忠（学識経験者） 須藤 敏清（学識経験者） 山本 ゆか（小方中PTA） 大井 一徳（教育委員会）		
1 はじめに 開会あいさつ（小田会長） 2 事務局説明 (1) 配布資料の確認 ・令和7年度使用中学校教科用図書採択地区調査研究報告書 ・令和7年度使用中学校教科用図書採択地区調査研究報告書（要約） ・「選定資料（中学校用教科用図書）」（広島県教育委員会） ・展示会閲覧者カード（写）集 ※会議後回収 ・各教科書会社の教科用図書 (2) 審議内容の説明 教育委員会への答申書の作成のため、本会議において教科書の実物を確認のうえ、採択地区調査員から報告を受け、教科書採択の観点に基づき、どの教科書を推薦していくのか審議してもらいたい。 (3) 注意点 調査研究はそれぞれの教科書の特徴を調べたものであり、調査員個人の意見が影響しないようにするため、調査員への質問の際には「どの教科書が良いと思うか」といった質問は行わないでもらいたい。 3 教科用図書採択地区調査員（代表者）からの報告及び質疑応答 (1) 報告内容 「令和7年度使用中学校教科用図書採択地区調査研究報告書」の様式1－2及び様式2に基づいて説明							

(2) 質疑応答 (【問】委員の質問、【答】採択地区調査員の答え)

○技術

【問】「技術の最適化」がキーワードとしてあがっているが、どういう意味合いか。

【答】例えば材料でいうと、適材適所で利用されているかどうかという意味である。

【問】QRコードの中の作業している場面の動画において、生徒目線と教員目線の動画になっているなど発行者によって違っているが、調査の過程でどのような意見がでたか。

【答】どちらがいいという具体的な意見はなかったが、生徒自身の親しみの点で言えば、生徒目線の方がいいと思う。

【問】開隆堂のページの右上に工具や材料の写真が載っているが、他の出版社ではどうか。

【答】大きな特徴ではあるが、他の出版社でも工具や材料の写真は掲載されている。

【問】大竹市と言えはものづくりの街であるが、ものづくりの観点において出版社の特徴はどうか。

【答】各社ともものづくりの点において重点を置いてはいるが、教育図書のみ技術的テキストとして別冊がある。

○家庭科

【問】近年詐欺の事案が多いが、消費生活の観点において、各社の特徴はどうか。

【答】消費生活の観点でいうと、東京書籍が一番多く、開隆堂は少なかった。(開隆堂は家族の内容が多くあった。)

○理科

【問】教育出版において、「議論に対する結論が大きく表記されており、生徒が先読みしてしまう可能性がある」という報告であったが、他社ではどうか。

【答】他社では、結論のページを分けており、ページをめくらないと結論が見えないように工夫している。

○道徳

【問】日本文教出版では、別冊のノート(道徳ノート)がついているのが特徴であるということだが、あるのとないのではどのような意見があったか。

【答】他社でも、デジタルをプリントアウトして使うことはできるが、別冊のノートがある方が授業はやりやすいという意見があった。

【問】いじめの問題の扱いについて、内容に力を入れている出版社の意見はどうか。

【答】日本文教出版のみ、複数ユニット化して、教育の時期も考えた構成となっており、力を入れているという意見があった。

【問】古い教材が各社残っていると感じたが、そのことについて意見はあったか。

【答】古い新しいで調査は行っていないが、漫画を差し込む等、どの出版社も工夫をしていると感じた。

○英語

【問】 小学校から中学校の教育への橋渡しについて、出版社ごとの取り組みはどうか。

【答】 どの出版社においても考えられているが、「東京書籍」は特に力を入れているという意見があった。（東京書籍はユニット0～4まで、橋渡し部分の教育となっているが、他社においてはユニット1までの所が多い。）

【問】 東京書籍の分量が増えたことはどうか。

【答】 特に問題はない。

【問】 家庭学習に対して、特徴的な出版社について意見はあったか。

【答】 東京書籍は、デジタルコンテンツをかなり充実させているという意見があった。

○保健体育

【問】 コロナウイルスが流行したが、感染症についての議論は何かあったか。

【答】 コロナウイルスに限らず、感染症として議論を進めた。

【問】 どの出版社も、QRコード等のコンテンツはあるのか。

【答】 どの出版社も多い。東京書籍が一番豊富ではあるが、導入部分に一番多くなっている。（導入部分に一番多くていいのかという議論はあった。）
他の科目と横断的に学べて、深い学びに繋がるのは学研である。

○数学

【問】 東京書籍の短所や課題について、議論はあったか。

【答】 話し合いの中では、バランスが取れているという意見であった。

【問】 箱ひげ図の観点で、出版社ごとの特徴について議論はあったか。

【答】 話し合いの中では、特に出てはいない。

休憩（見本本の入替）

○音楽

【問】 アルトリコーダーを中心に、箏やギターも出てくる。例えばギターを弾く時のコードは、写真のあるなしではどちらがいいという議論はあったか。

【答】 写真がある方がいいという意見であった。箏 も必要である。日本の伝統音楽を学ぶ為に、縦譜は必要であり、教育芸術社の方が扱いが大きい。

○美術

【問】 光村図書において、「鑑賞を深めるための対話の視点」について報告があったが、他社ではどうか。

【答】 他社においてもあるが、光村図書が一番特徴的な内容となっている。

【問】 光村図書は別冊の資料がついているのが特徴であるという報告だが、他社においては、光村図書でいう別冊はどのような扱いか。また、別冊としている事の意見は何かあったか。

【答】 他社においては、巻末で資料を掲載している。別冊としている方が、表紙に目次もついており調べやすく分かりやすいという意見があった。

巻末だと、どの学年に載っているのか分からない。

○社会（地理）

【問】中四国地域の扱い、広島のことを重点的に取り扱っている出版社はどうか。

【答】出版社によって扱いは違うが、東京書籍の掲載ページ数は多かった。多いからといっていいわけではない。社会的な見方ができていれば、ページの多い少ないは関係ない。

【問】各社の防災視点や扱いはどうか。

【答】どこの社がどれだけ扱っているという視点では、比較はできていない。

○社会（歴史）

【問】令和書籍に「慰安婦像」についての内容があったが、議論はあったか。

【答】議論はなかった。令和書籍は内容的に、他の出版社と比べて、異なる視点が多かった。

○社会（公民）

【問】教育出版社の「実社会の課題と向き合い探求する学習を設定する」という報告があったが、他社においてはどうか。

【答】似たようなものは他社でもあったが、明確なのは教育出版社であった。

【問】地理・歴史の土台の上に公民があると思うが、3分野を絡めた表現について議論はあったか。

【答】特に東京書籍が、他の分野や教科も含めて関連が示されているという意見があった。

○地図

【問】小学校からの発達段階（繋がり）に関して議論はあったか。

【答】鳥瞰図があればわかりやすいという意見はあった。鳥瞰図は絵地図に関連していると思う。繋がり意識して調査はしていない。

○国語

【問】思考力の視点で、話し合ったり、伝え合ったりする特徴について、何か意見はあったか。

【答】3領域のそれぞれに視点が組み込まれているものもあれば、1領域にのみ組み込まれているものもあった。

○書写

【問】QRコードによる、音声説明について意見はあったか。

【答】生徒の自主学習を考えると、音声説明があった方がいいという意見があった。

【問】左利きの生徒への対応は、写真があった方がいいか。

【答】あった方がいい。写真がない出版社は、デジタルコンテンツで対応している。

4 事務局説明

本日の調査研究報告を受け、答申書作成のため、7月31日水曜日開催予定の第3回教科用図書選定委員会において、各委員から推薦する教科用図書と選定する理由を示してもらいたい。

なお、調査報告書などの採択に関する書類や書籍は、次回終了後に全て回収させていただきます。

5 閉会あいさつ（総務学事課長）

※配布資料のうち、展示会閲覧者カード（写）集は会議後、回収した。